

静岡市 「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」

調査結果報告書

概 要 版



平成 26 年 2 月

静 岡 市

目次

| | |
|-------|---|
| 調査の目的 | 1 |
| 調査概要 | 1 |

調査結果

| | | |
|----|---|----|
| 1 | あて名のお子さんご家族の状況について | 1 |
| 2 | 子どもの育ちをめぐる環境について | 2 |
| 3 | 保護者の就労状況について | 4 |
| 4 | 平日の定期的な教育・保育事業の利用について（就学前児童） | 5 |
| 5 | 地域の子育て支援事業の利用状況について（就学前児童） | 7 |
| 6 | 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童） | 7 |
| 7 | 病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ） | 8 |
| 8 | 不定期の教育・保育事業等の利用について | 10 |
| 9 | 放課後の過ごし方と放課後児童クラブの利用状況について | 12 |
| 10 | 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について（就学前児童） | 14 |
| 11 | 子育て支援サービスの認知度及び利用状況などについて | 17 |
| 12 | 子育てに関する意識などについて | 21 |

1

調査の目的

子ども・子育て支援事業計画（計画期間：平成 27～31 年度）における需要量の見込み等を設定する上での基礎資料とするため、市民の子育てに関する生活実態や、子育て支援の利用状況、利用希望等について把握することを目的に、「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」として実施しました。

2

調査概要

- 調査地域 : 静岡市内全域
- 調査対象者 : 就学前児童（0～5歳）を養育する保護者（就学前児童調査）
小学生（1年生～6年生）を養育する保護者（就学児童調査）
- 抽出方法 : 住民基本台帳より、就学前児童（0歳～5歳）5,000人、
小学生（6歳～11歳）2,000人の、合計7,000人を無作為抽出
※同一世帯に複数の調査票を送付しないよう抽出
- 調査期間 : 平成 25 年 10 月 25 日（金）～平成 25 年 11 月 12 日（火）
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収による郵送調査法

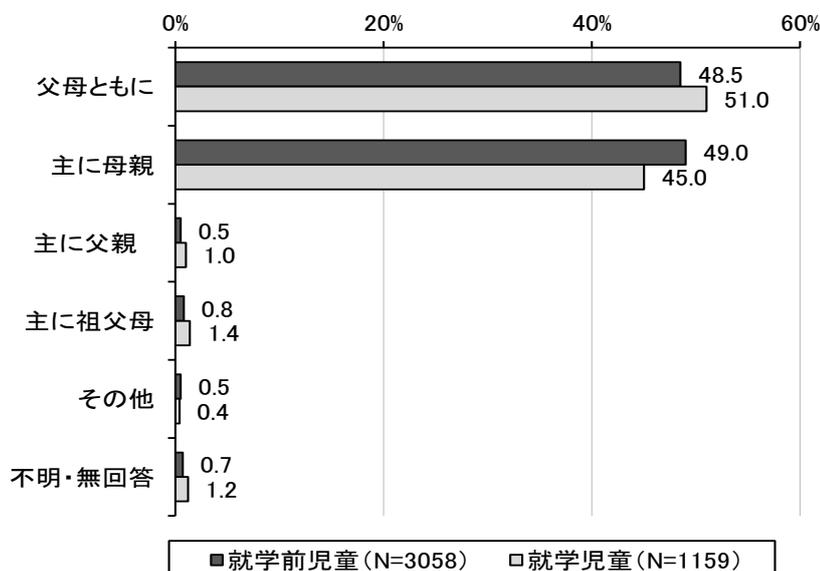
| 調査票 | 調査対象者数（配布数） | 有効回収数 | 有効回収率 |
|-------|-------------|-------|-------|
| 就学前児童 | 5,000 | 3,058 | 61.2% |
| 就学児童 | 2,000 | 1,159 | 58.0% |
| 合計 | 7,000 | 4,217 | 60.2% |

1

あて名のお子さんをご家族の状況について

（1）子育てを主に行っている方〈単数回答〉〔就学前児童調査・就学児童調査…問6〕

就学前児童、就学児童いずれも、「父母ともに」が半数を占めているとともに、「主に母親」の占める割合も高くなっています。

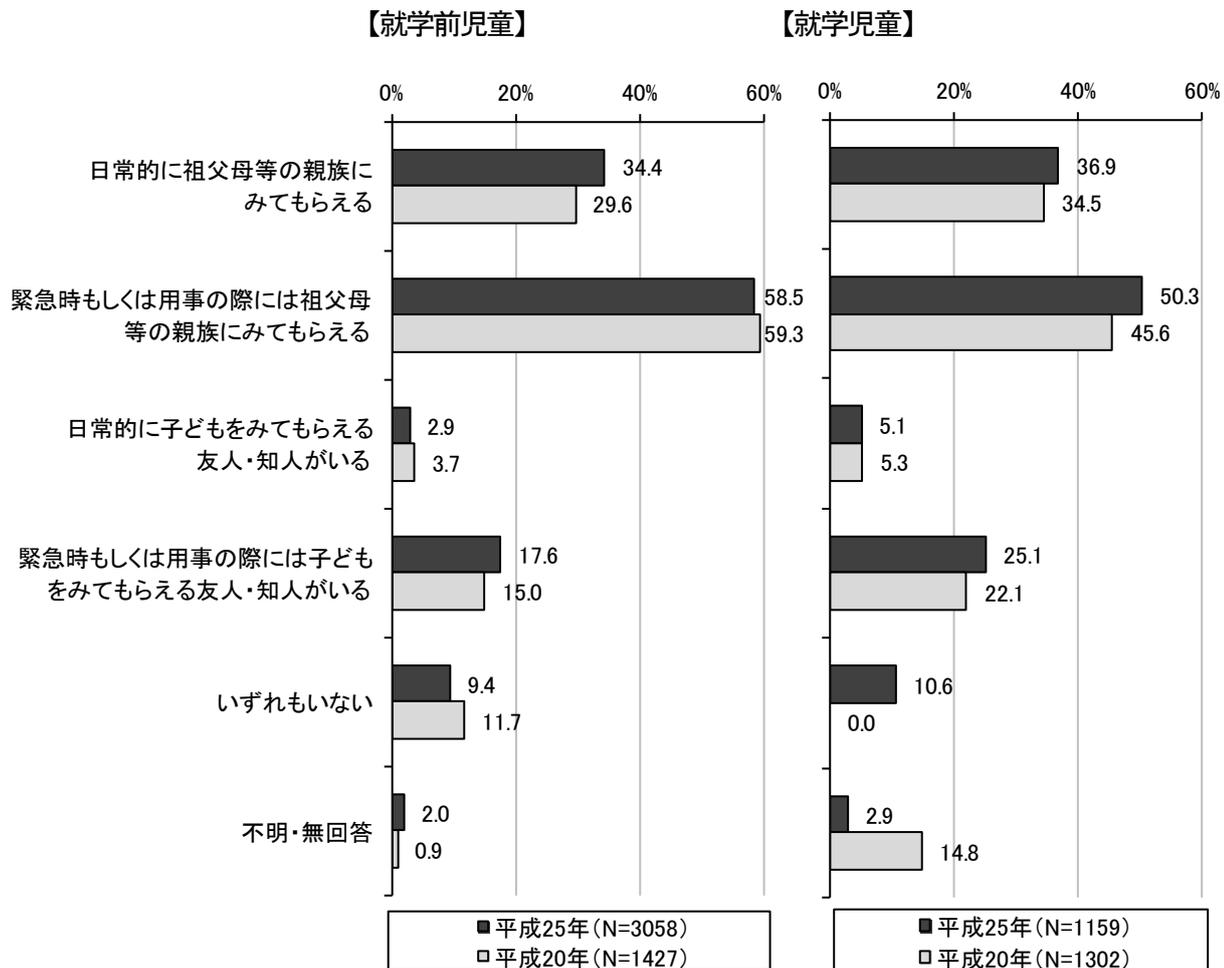


(1) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無〈複数回答〉〔就学前児童調査・就学児童調査…問7〕

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無についてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が、就学前児童では58.5%、就学児童では50.3%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が34.4%、36.9%となっています。

【平成20年実施前回調査「次世代育成支援対策に関するアンケート調査」との対比】

前回調査でも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が、就学前児童では59.3%、就学児童では45.6%と最も高く、今回の調査と大きな傾向の差は見られませんでした。

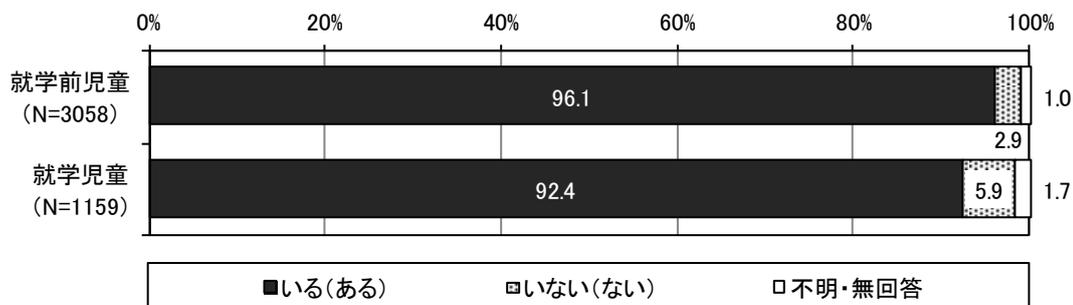


(2) 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無〈単数回答〉

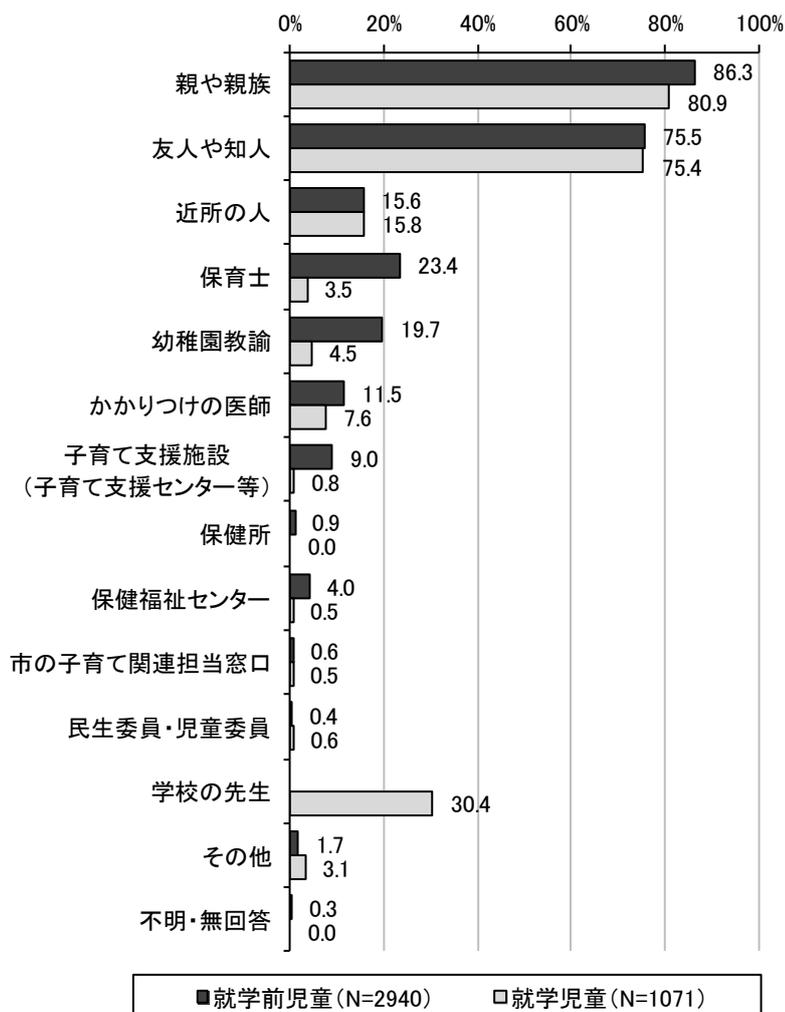
〔就学前児童調査・就学児童調査…問8〕

子育てをする上での相談相手（場所）の有無についてみると、「いる（ある）」が就学前児童で 96.1%、就学児童で 92.4%となっています。

相談相手（場所）をみると、「親や親族」が最も高く、就学前児童で 86.3%、就学児童で 80.9%となっており、次いで、「友人や知人」が就学前児童で 75.5%、就学児童で 75.4%となっています。また、それ以外の回答では、「保育士」「幼稚園教諭」「学校の先生」が高くなっています。



◎相談相手（場所）〈複数回答〉



(1) 保護者の就労状況〈単数回答〉〔就学前児童調査…問10-1 問12-1、就学児童調査…問10-1、問11-1〕

保護者の就労状況についてみると、就学前児童の母親では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が42.8%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が24.9%となっています。一方、就学児童の母親では、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が43.0%で最も高く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が23.0%となっています。

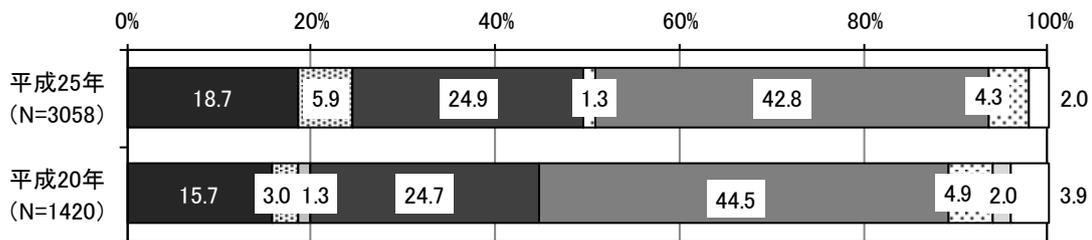
また、父親では「フルタイムで就労しており、産休・介護休業中ではない」が就学前児童で92.9%、就学児童で88.6%と最も高くなっています。

【平成20年実施前回調査「次世代育成支援対策に関するアンケート調査」との対比】

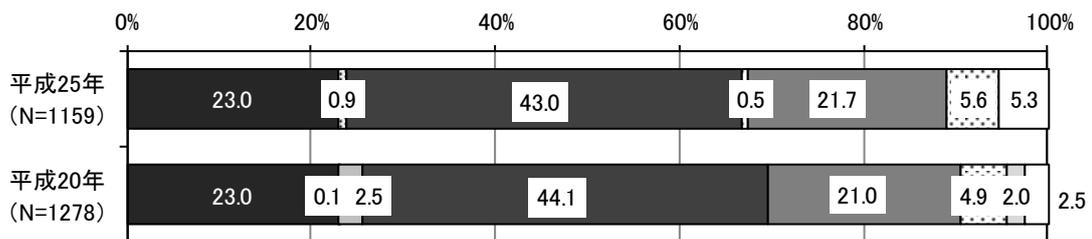
前回調査では、就学前児童の母親では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が44.5%で最も高く、就学児童の母親では「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が44.1%で最も高くなっており、今回の調査と大きな傾向の差は見られませんでした。

また、父親では、前回調査でも、「フルタイムで就労しており、産休・介護休業中ではない」が就学前児童で95.2%、就学児童で95.6%で最も高くなっており、今回の調査と大きな傾向の差は見られませんでした。

【母 親・就学前児童】



【母 親・就学児童】

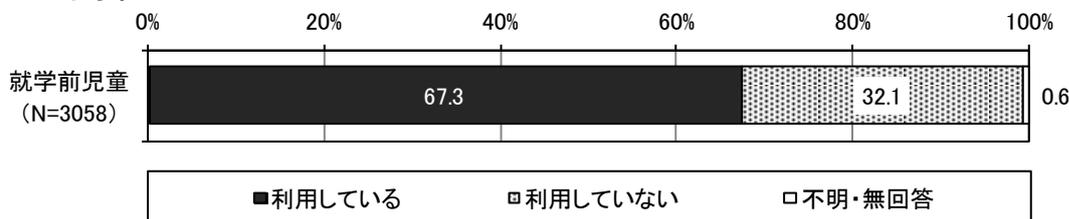


- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- 就労している(フレックス・短時間勤務等を利用)※平成20年のみ
- パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である※平成25年のみ
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- その他※平成20年のみ
- 不明・無回答

* 「フルタイム」：1週5日程度・1日8時間程度の就労
「パート・アルバイト等」：フルタイム以外の就労

（１）現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無〈単数回答〉〔就学前児童調査…問13〕

現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無についてみると、「利用している」が67.3%で、「利用していない」を上回っています。



*ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指す。具体的には、幼稚園や保育所等。

年齢別 × 定期的な教育・保育事業の利用の有無

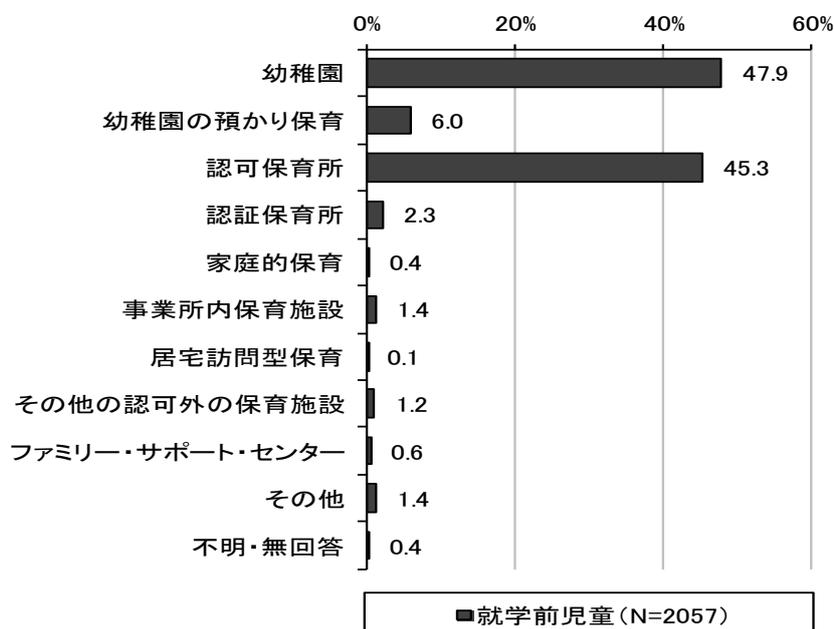
年齢別にみると、0～2歳では「利用していない」が5割を超えています。一方、3歳以上では「利用している」が9割を超えています。

| | 合計 | 利用している | 利用していない | 不明・無回答 |
|--------|---------------|--------------|-------------|-----------|
| 合計 | 3058 100.0 | 2057 67.3 | 982 32.1 | 19 0.6 |
| 0歳 | 482 100.0 | 95 19.7 | 383 79.5 | 4 0.8 |
| 1歳 | 479 100.0 | 174 36.3 | 299 62.4 | 6 1.3 |
| 2歳 | 537 100.0 | 262 48.8 | 271 50.5 | 4 0.7 |
| 3歳 | 519 100.0 | 504 97.1 | 14 2.7 | 1 0.2 |
| 4歳 | 501 100.0 | 496 99.0 | 4 0.8 | 1 0.2 |
| 5歳 | 501 100.0 | 498 99.4 | 1 0.2 | 2 0.4 |
| 不明・無回答 | 39 100.0 | 28 71.8 | 10 25.6 | 1 2.6 |

（１）で「利用している」を選んだ方

（１）－１ 平日に利用している教育・保育事業〈複数回答〉〔就学前児童調査…問13〕

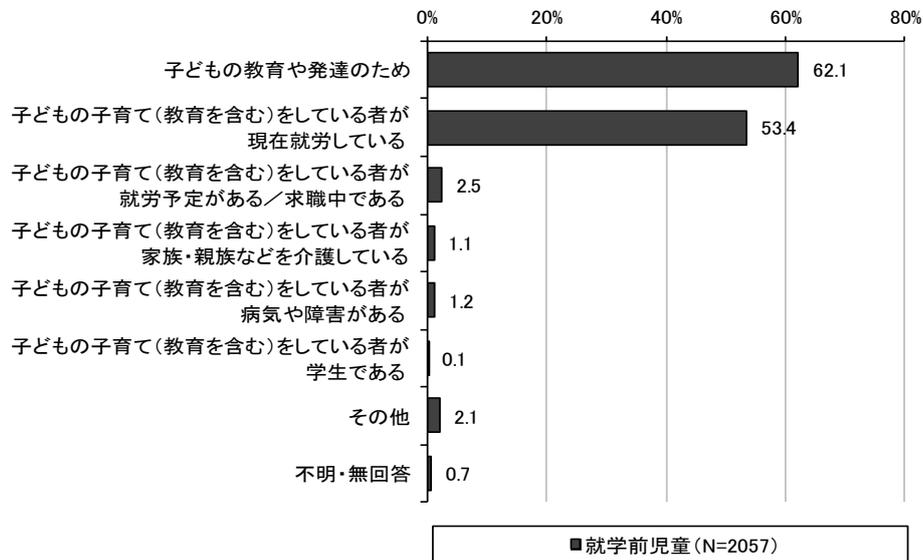
平日に利用している教育・保育事業についてみると、「幼稚園」が47.9%、「認可保育所」が45.3%と高くなっており、その他の事業については6%以下となっています。



(1) で「利用している」を選んだ方

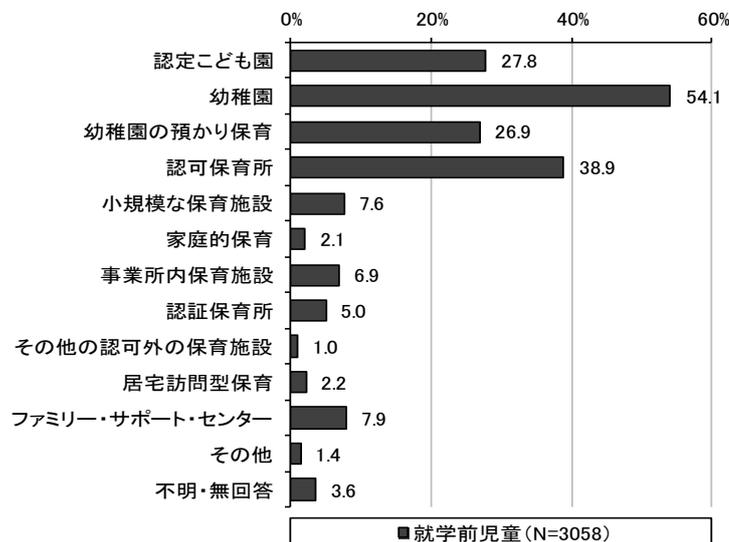
(1) - 2 平日、教育・保育事業を利用している主な理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 13-1〕

平日、教育・保育事業を利用している主な理由についてみると、「子どもの教育や発達のため」が 62.1%、「子どもの子育て（教育を含む）をしている者が現在就労している」が 53.4%と高くなっています。



(2) 現在の利用の有無にかかわらず、今後、平日の教育・保育事業として「定期的に」利用したいと考える事業〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 14〕

今後、平日に定期的に利用したいと考える教育・保育事業についてみると、「幼稚園」が 54.1%で最も高く、次いで「認可保育所」が 38.9%、「認定こども園」が 27.8%、「幼稚園の預かり保育」が 26.9%となっています。



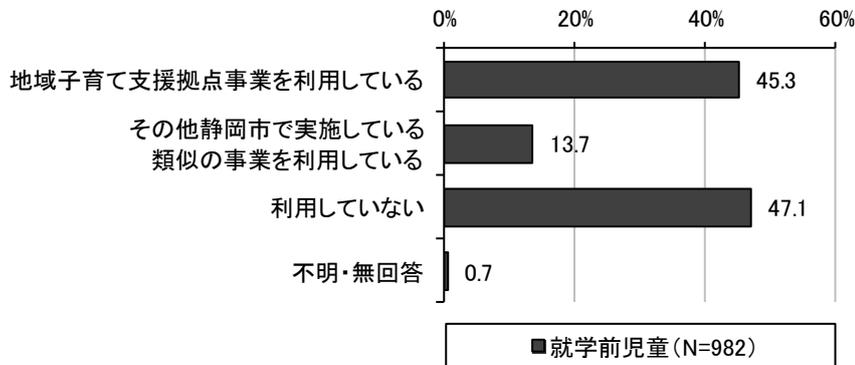
5

地域の子育て支援事業の利用状況について（就学前児童）

（1）現在の地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）の利用状況〈複数回答〉

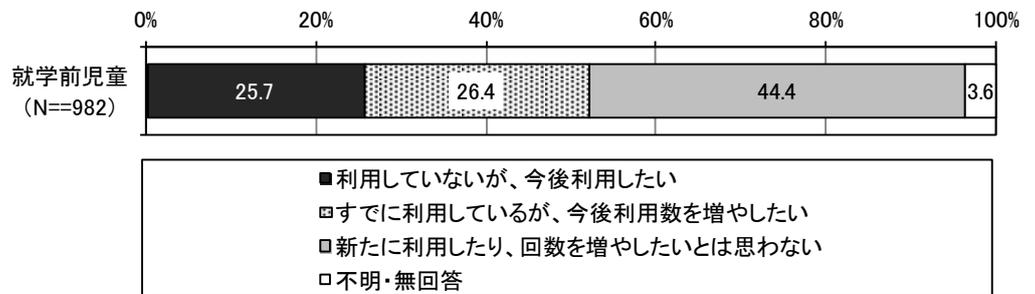
〔就学前児童調査…問15〕

地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）の利用状況についてみると、「利用していない」が47.1%で、「地域子育て支援拠点事業を利用している」が45.3%となっています。



（2）地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向〈単数回答〉〔就学前児童調査…問16〕

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向についてみると、「今後利用したい」と「今後利用を増やしたい」を合わせると5割以上となっています。



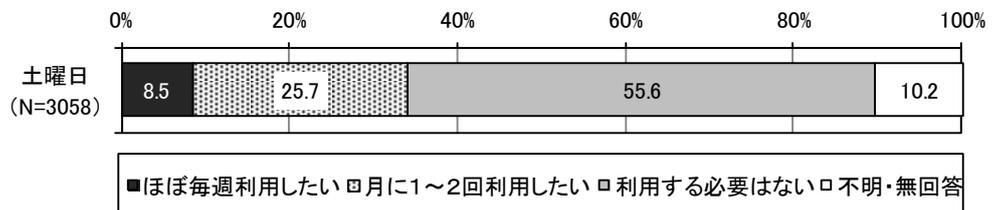
6

土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童）

（1）土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望（一時的な利用は除く）〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問17〕

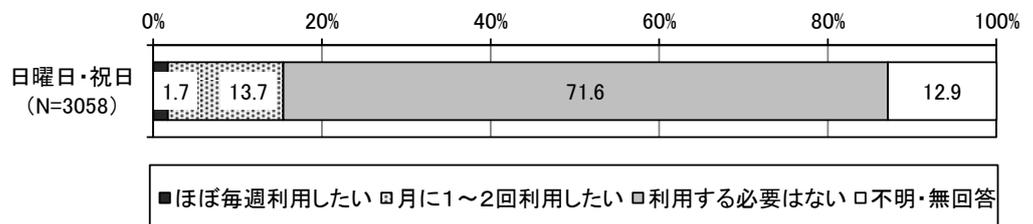
土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望についてみると、「利用する必要はない」が55.6%と最も高くなっています。



（2）日曜日・祝日の、定期的な教育・保育事業の利用希望（一時的な利用は除く）

〈単数回答〉〔就学前児童調査…問17〕

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望についてみると、「利用する必要はない」がそれぞれ71.6%と最も高くなっています。



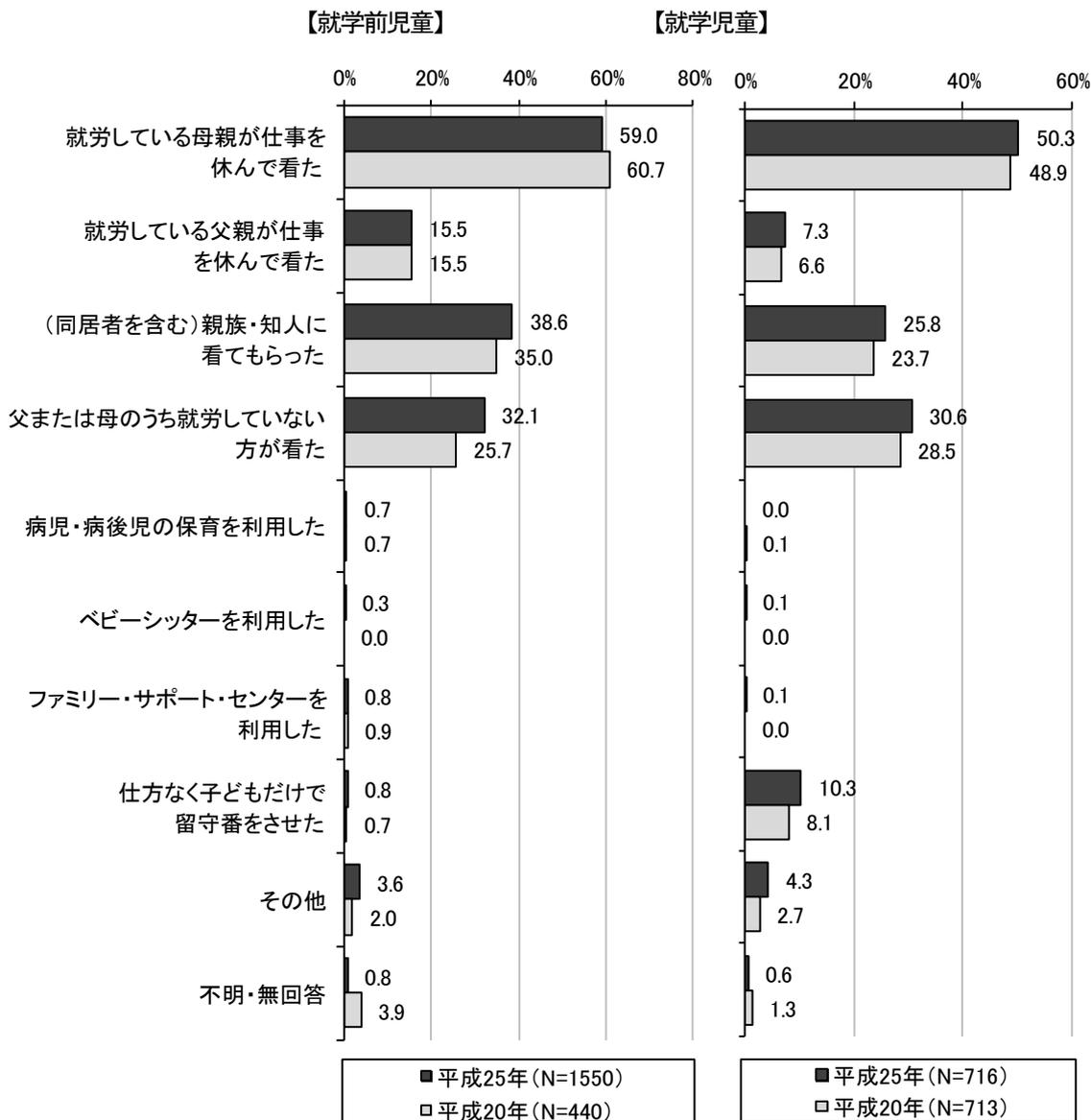
（１） 子どもが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった（就学児童は学校を休まなければならなかった）場合の、この１年間に行った対処方法〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 18、就学児童調査…問 12〕

子どもが病気やけがで教育・保育事業が利用できなかったり、学校へ行けなかった場合の対処方法についてみると、「就労している母親が仕事を休んで見た」が就学前児童で 59.0%、就学児童で 50.3%と、それぞれ最も高くなっています。次いで、就学前児童では、「(同居者を含む) 親族・知人に看てもらった」が 38.6%、「父または母のうち就労していない方が見た」が 32.1%となっており、就学児童では、「父または母のうち就労していない方が見た」が 30.6%。「(同居者を含む) 親族・知人に看てもらった」が 25.8%となっています。

【平成 20 年実施前回調査「次世代育成支援対策に関するアンケート調査」との対比】

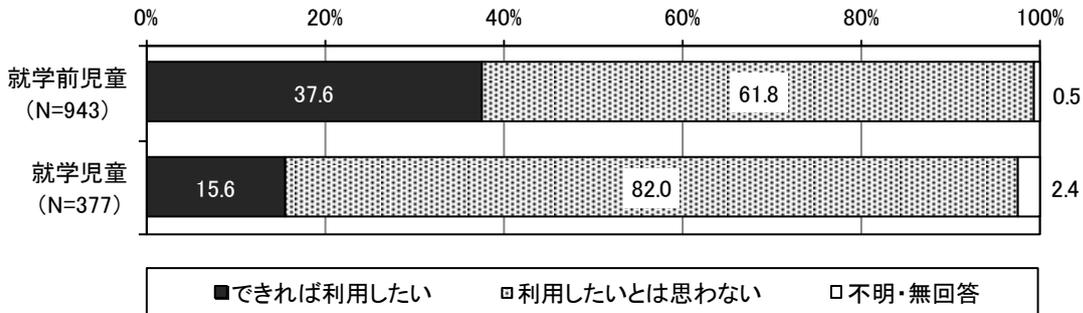
前回調査では、「就労している母親が仕事を休んで見た」が就学前児童で 60.7%、就学児童で 48.9%と最も高くなっており、今回の調査と大きな傾向の差は見られませんでした。



(1) で「母親が休んだ」または「父親が休んだ」を選んだ方

(2) 子どもが病気等の際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったか〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 19、就学児童調査…問 13〕

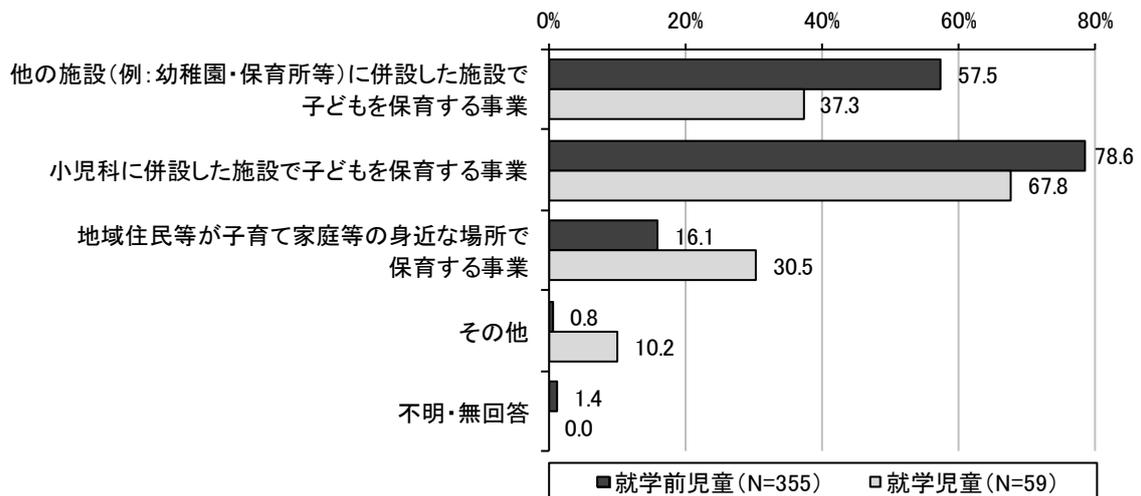
父親または母親が休んだ方で「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったかについてみると、「利用したいとは思わない」が就学前児童で61.8%、就学児童で82.0%となっており、「できれば利用したい」に比べて高い割合となっています。



(2) で「できれば利用したい」を選んだ方

(2) - 1 希望する事業形態〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 19、就学児童調査…問 13〕

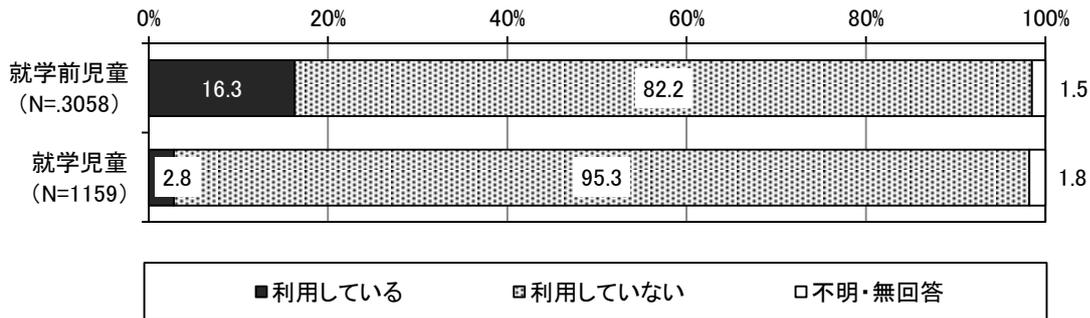
病児・病後児保育施設等を利用したい方の、子どもを預ける場合の望ましい事業形態についてみると、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が就学前児童、就学児童ともに最も高く、それぞれ78.6%、67.8%となっており、次いで「他の施設（幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」が57.5%、37.3%となっています。



**(1) 日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、不
定期に利用している事業の有無〈複数回答〉**〔就学前児童調査…問 21、就学児童調査…問 15〕

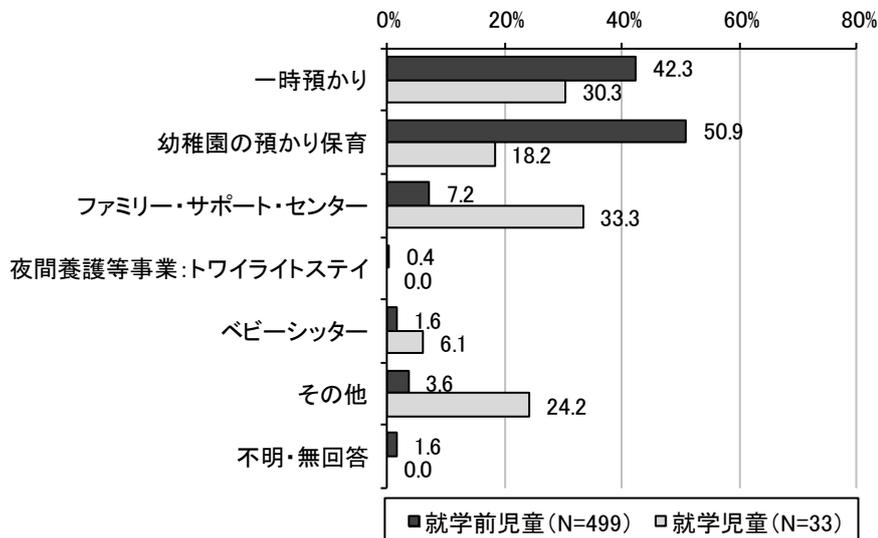
私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業の有無についてみると、就学前児童、就学児童ともに、「利用していない」が高く、それぞれ82.2%、95.3%と大部分を占めています。

利用している事業についてみると、就学前児童では「一時預かり」、「幼稚園の預かり保育」の割合が高く、就学児童では「ファミリー・サポート・センター」が高くなっています。



(1) で「利用している」を選んだ方

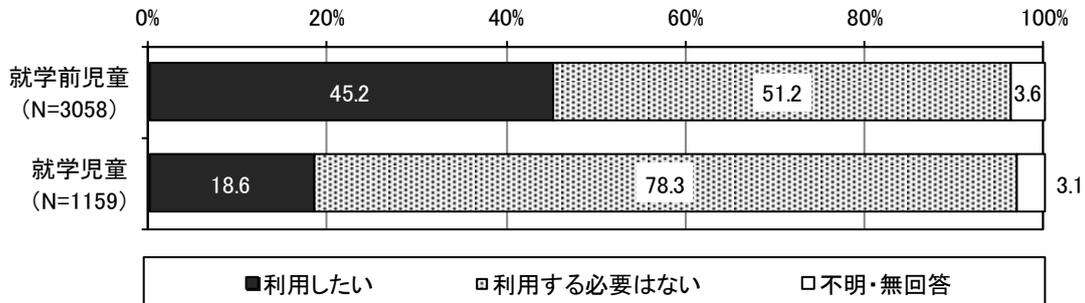
(1) - 1 不定期に利用している事業〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 21、就学児童調査…問 15〕



(2) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、利用したい事業の有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 22、就学児童調査…問 16〕

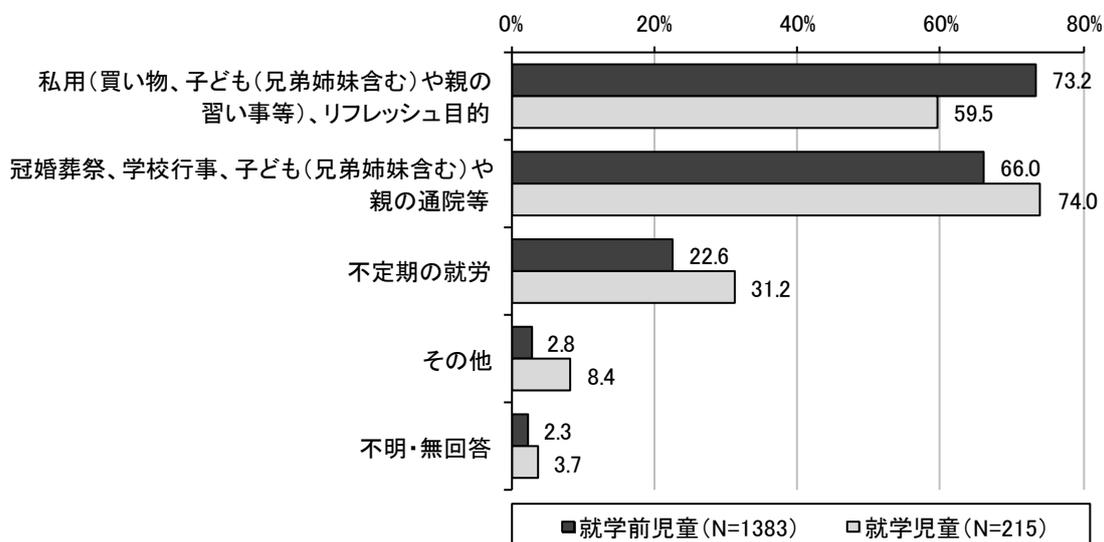
不定期に利用する必要がある事業の有無についてみると、「利用する必要はない」が就学前児童で51.2%、就学児童で78.3%となっており、特に就学児童では「利用する必要はない」が「利用したい」を大きく上回っています。



(2) で「利用したい」を選んだ方

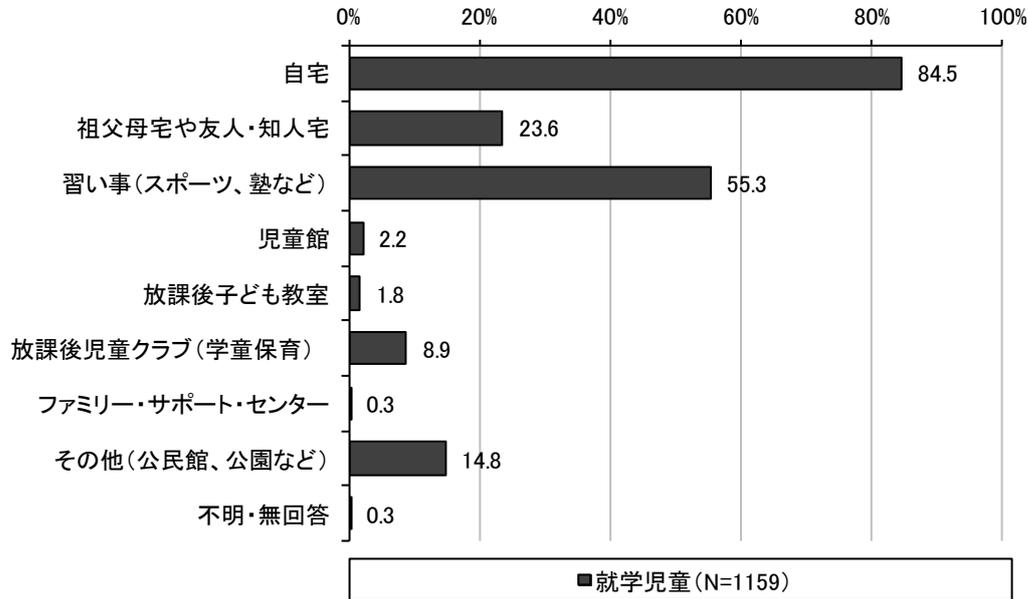
(2) - 1 希望する利用目的〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 22、就学児童調査…問 16〕

利用したい方の希望する利用目的をみると、就学前児童では「私用(買い物、子ども(兄弟姉妹含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」が73.2%、就学児童では「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹含む)や親の通院等」が74.0%で最も高くなっています。



(1) 放課後（平日の小学校終了後）の過ごし方〈複数回答〉〔就学児童調査…問19〕

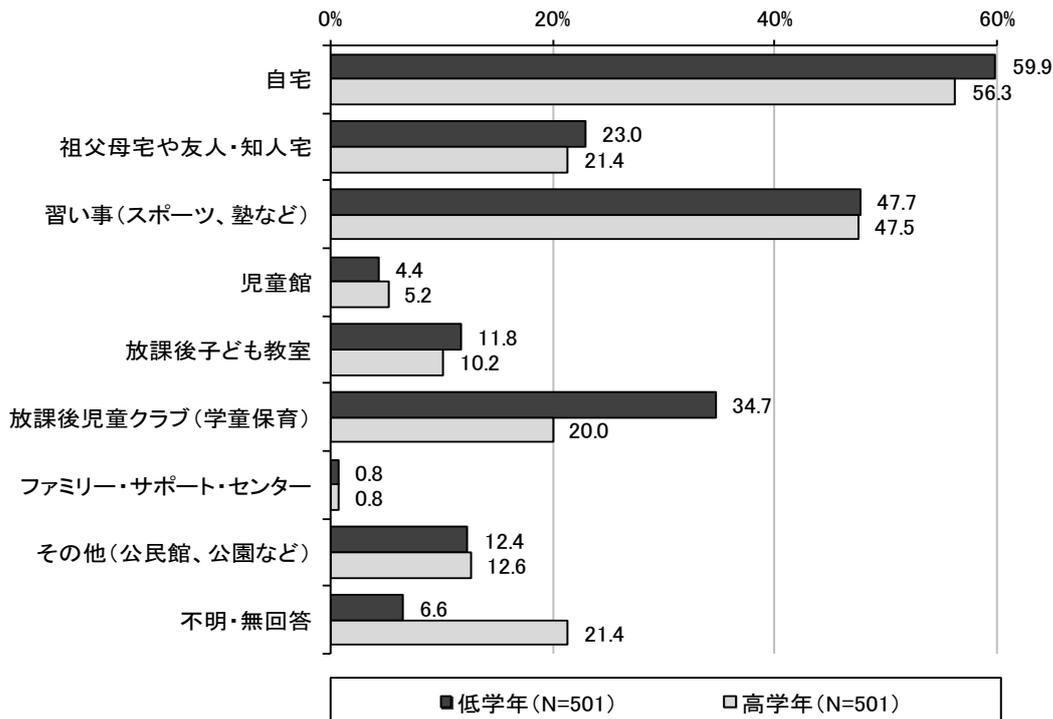
放課後（平日の小学校終了後）の過ごし方についてみると、「自宅」が84.5%と最も高く、次いで「習い事（スポーツ、塾など）」が55.3%となっています。



(2) 小学校に就学後、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思うか〈複数回答〉〔就学前児童調査…問25〕

※低学年時（1～3年生）と高学年時（4～6年生）に分けて回答

放課後の時間を過ごさせたいと思う場所についてみると、低学年、高学年ともに「自宅」が最も高く、次いで「習い事」となっています。また、「放課後児童クラブ」については、高学年より低学年の利用希望が高くなっています。



(3) 放課後児童クラブを何年生まで利用したいか〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 25.26、就学児童調査…問 21〕

放課後児童クラブを何年生まで利用したいかについては、就学前児童では「低学年の間は利用したい」が63.5%、次いで「6年生まで利用したい」が22.3%となっています。一方、就学児童では、「低学年の間は利用したい」と「6年生まで利用したい」が同程度の割合で高い回答となっています。

| | 合計 | 低学年(1~3年生)の間は利用したい | 4年生まで利用したい | 5年生まで利用したい | 6年生まで利用したい | 不明・無回答 |
|-------|--------------|--------------------|------------|------------|------------|----------|
| 就学前児童 | 274 100.0 | 174 63.5 | 26 9.5 | 8 2.9 | 61 22.3 | 5 1.8 |
| 就学児童 | 103 100.0 | 37 35.9 | 19 18.4 | 5 4.9 | 40 38.8 | 2 1.9 |

(4) 平日の下校時から何時まで利用したいか〈数量回答〉〔就学前児童調査…問 25、就学児童調査…問 22〕

平日の利用希望時間は就学前児童では17~18時台が高く、一方で就学児童は18~19時台が高く、希望する時間帯に差があります。

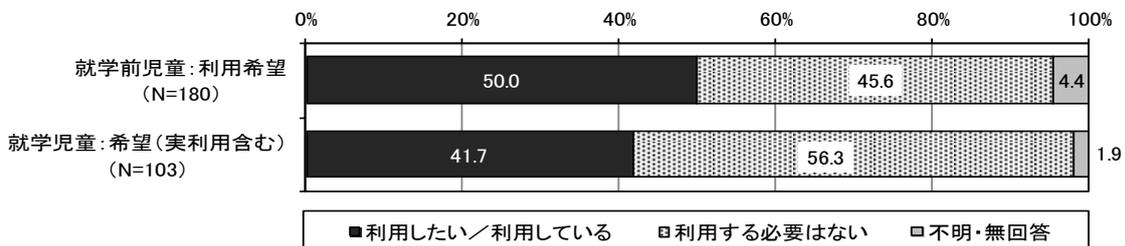
| | | 15時より前 | 15時台 | 16時台 | 17時台 | 18時台 | 19時台 | 20時以降 | 不明・無回答 |
|--------------------------------|----|--------|------|------|------|------|------|-------|--------|
| 【就学前児童】 低学年時利用希望 (N=174) | 件数 | 1 | 3 | 21 | 59 | 55 | 24 | 2 | 9 |
| | % | 0.6 | 1.7 | 12.1 | 33.9 | 31.6 | 13.8 | 1.1 | 5.2 |
| 【就学前児童】 高学年時利用希望 (N=100) | 件数 | 0 | 0 | 6 | 38 | 29 | 16 | 3 | 8 |
| | % | 0.0 | 0.0 | 6.0 | 38.0 | 29.0 | 16.0 | 3.0 | 8.0 |
| 【就学児童】 希望 (N=103) | 件数 | 0 | 0 | 0 | 17 | 38 | 45 | 2 | 1 |
| | % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 16.5 | 36.9 | 43.7 | 1.9 | 1.0 |

※網掛けは、各項目において最も割合の高いものを示す。

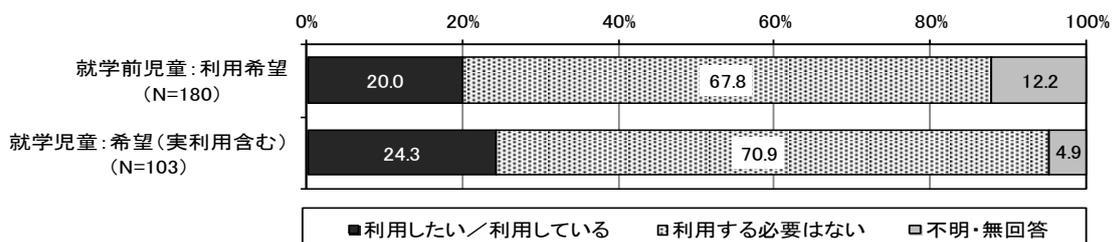
(5) 土・日・祝日の利用希望〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 27、就学児童調査…問 23〕

土曜日及び日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用についてみると、就学前児童と就学児童でほぼ同様の傾向となっており、土曜日では「利用したい/利用している」が半数程度となっているが、日曜日・祝日では2割程度と低くなっています。

■土曜日

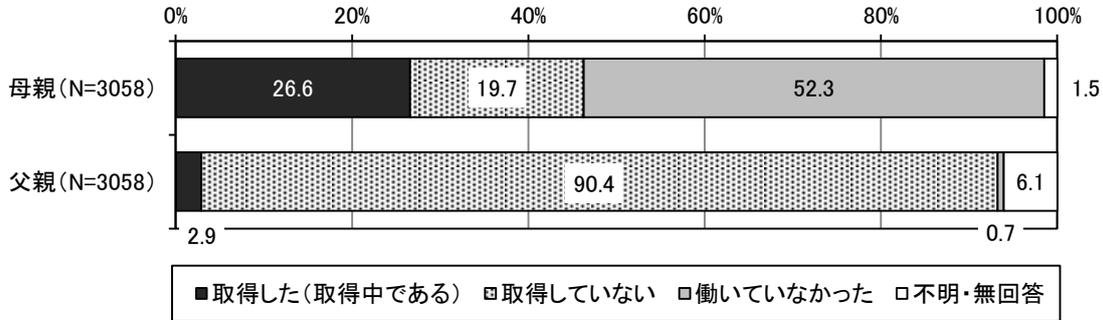


■日曜日・祝日



（１）子どもが生まれた時の保護者の育児休業取得状況〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 29〕

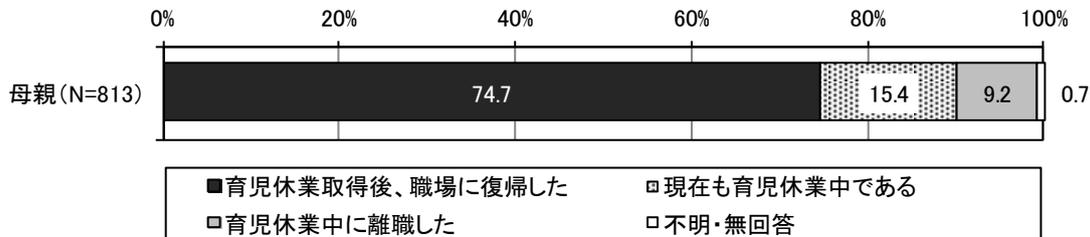
子どもが生まれた時の保護者の育児休業取得状況についてみると、母親では「働いていなかった」が52.3%と最も高く、次いで「取得した（取得中である）」が26.6%となっています。一方、父親では「取得していない」が90.4%と大部分を占め、「取得した（取得中である）」は2.9%となっています。



（１）で「取得した（取得中である）」を選んだ方（母親）

（１）－１ 育児休業取得後の状況（母親）〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 29〕

母親の育児休業取得後の状況をみると、「育児休業取得後、職場に復帰した」が74.7%と最も高くなっています。次いで、「現在も育児休業中である」が15.4%となっています。



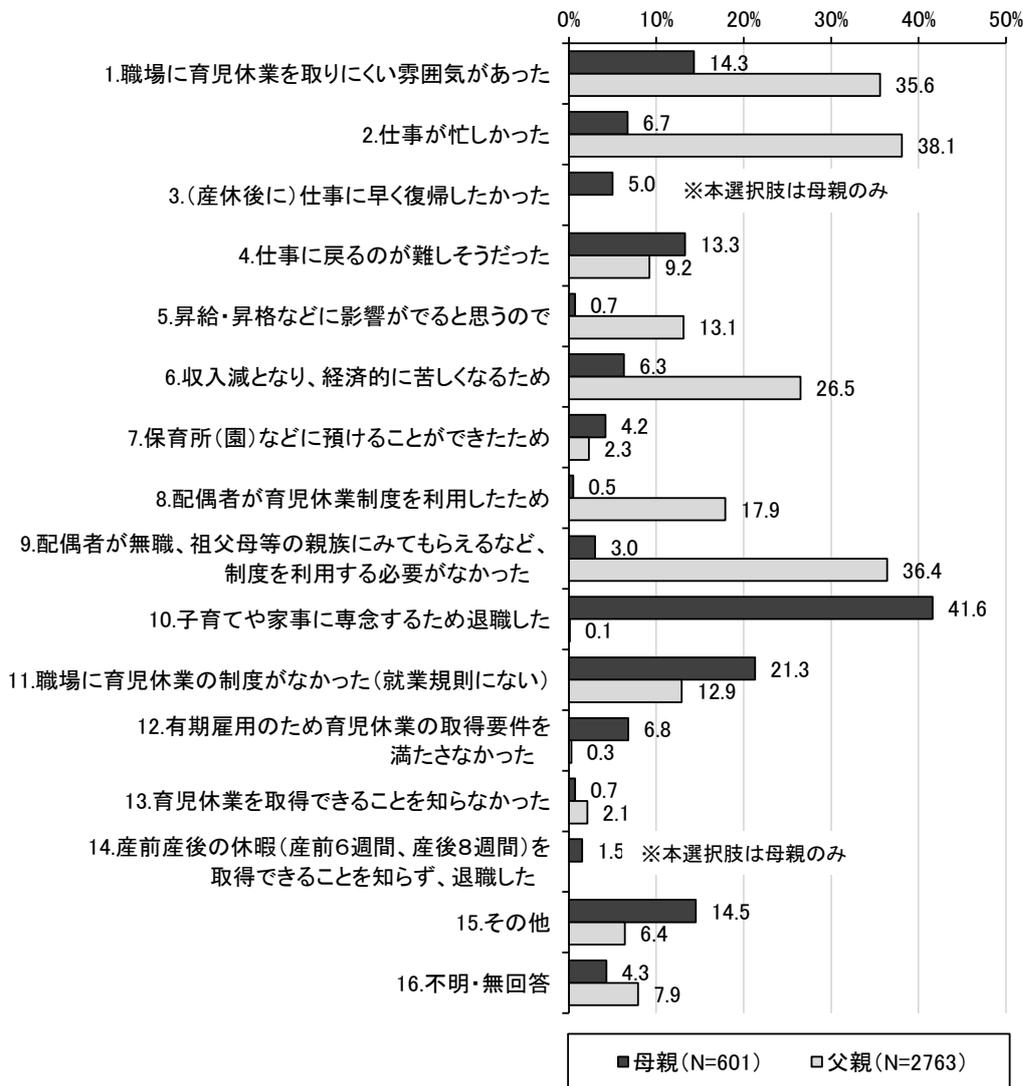
(1)で「取得していない」を選んだ方

(1) - 2 育児休業を取得していない理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問29〕

母親が育児休業を取得していない理由については、「10.子育てや家事に専念するため退職した」が41.6%で最も高く、次いで「11.職場に育児休業の制度がなかった(就業規則にない)」が21.3%となっています。

父親が育児休業を取得していない理由については、「2.仕事が忙しかった」が38.1%と最も高く、次いで「9.配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が36.4%、「1.職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が35.6%、「6.収入減となり、経済的に苦しくなるため」が26.5%となっています。

傾向としては、父親は主に就労関係(1~6)や家族のフォロー(9)の回答が多く、一方、母親は退職(10)を頭に、就労関係(1~6)、制度関係(11~14)に分散しています。

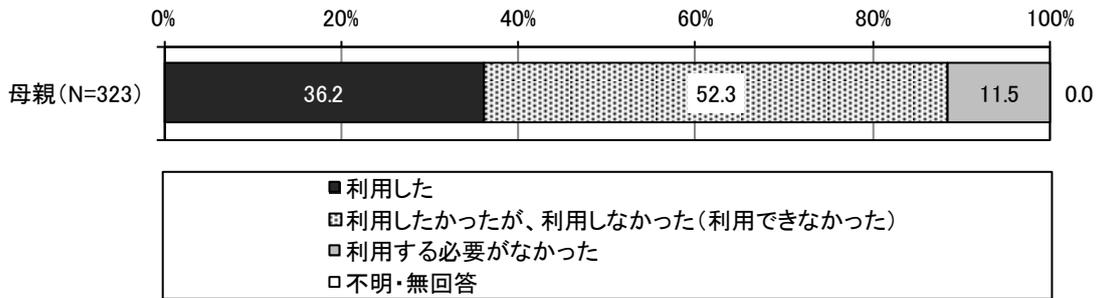


(1) - 1で「育児休業取得後、職場に復帰した(母親)」を選んだ方

(2) 職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況〈単数回答〉〔就学前児童調査…問30-4〕

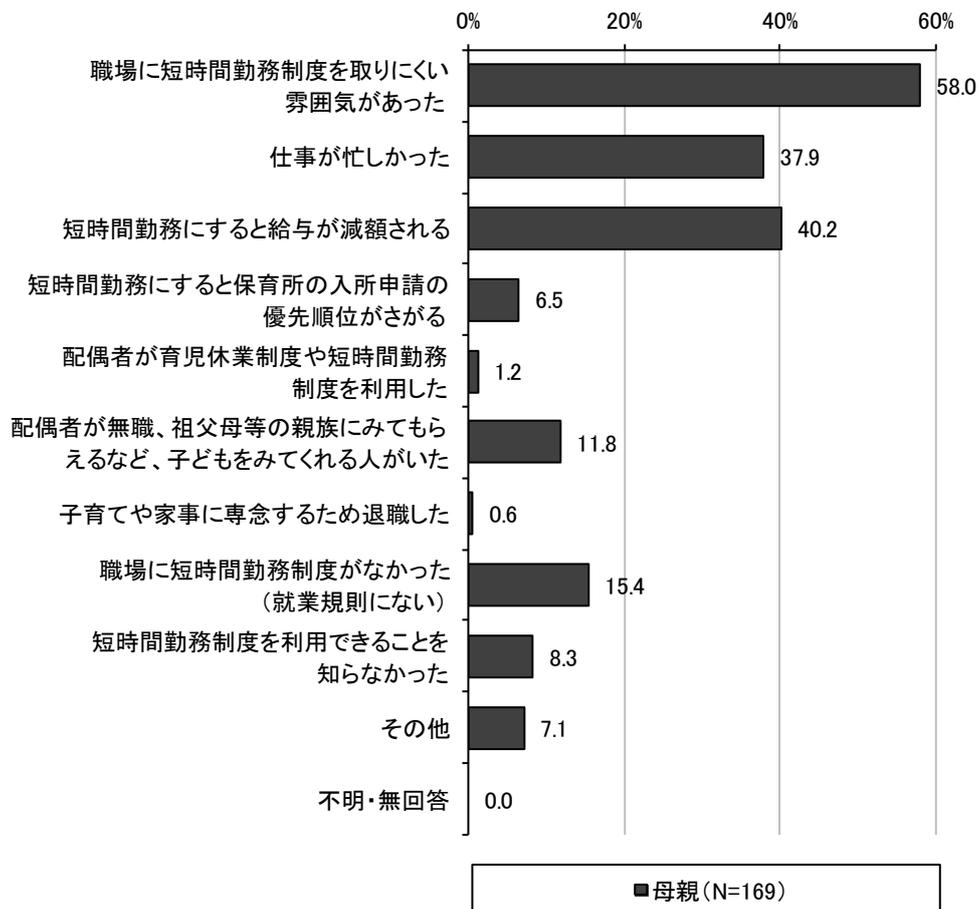
母親の職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況についてみると、「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が52.3%と最も高くなっています。

短時間勤務制度を利用しなかった理由としては、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が58.0%で最も高く、次いで「短時間勤務にすると給与が減額される」が40.2%、「仕事が忙しかった」と続き、就労環境に関する回答が高くなっています。



短時間勤務制度を「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」を選んだ方

短時間勤務制度を利用しなかった理由〈複数回答〉

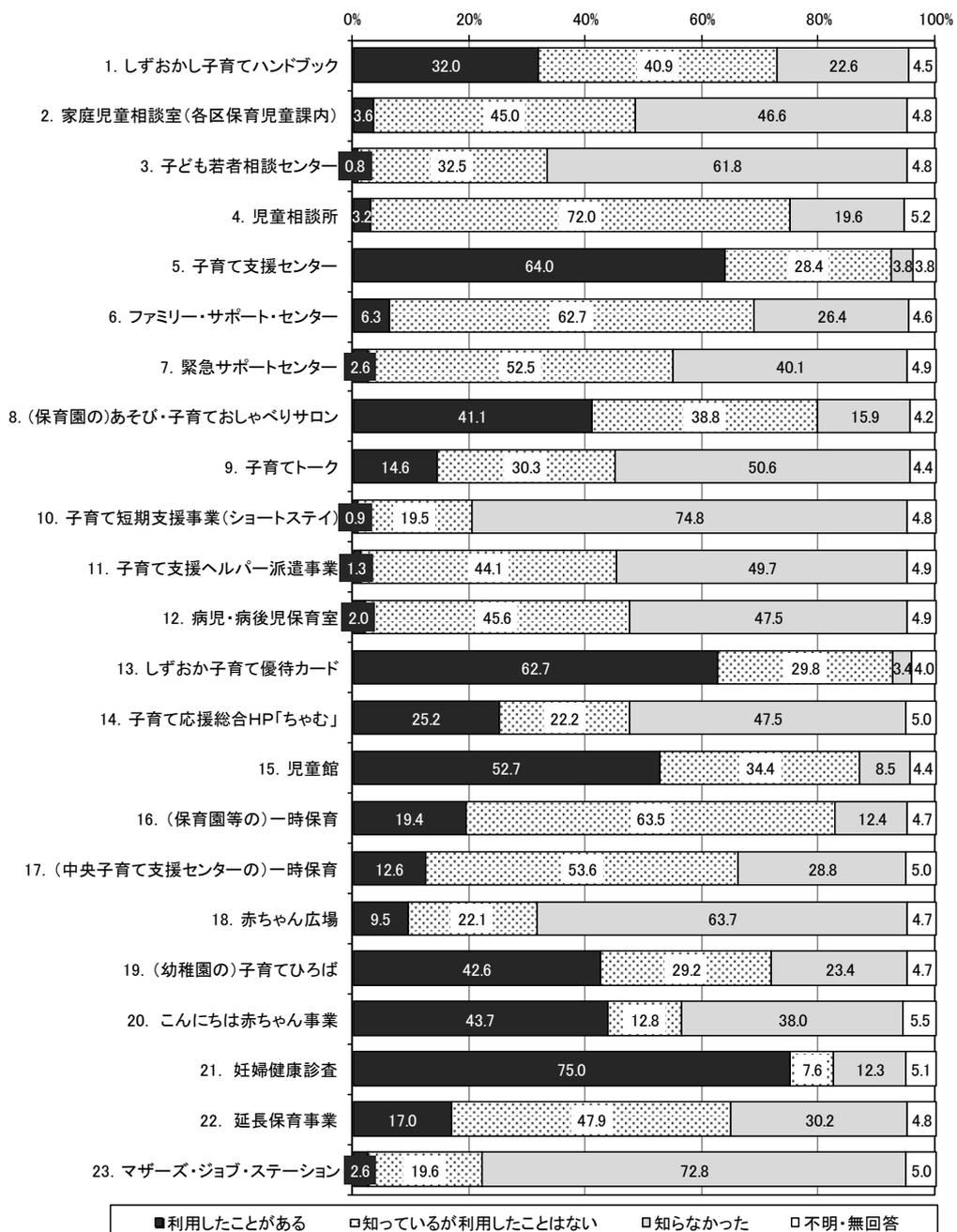


(1) 各種事業の認知度・利用状況〈単数回答〉〔就学前児童調査…問32A、就学児童調査…問27A〕

就学前児童の各事業の「認知度」をみると、23事業のうち14の事業については「利用したことがある」及び「知っている」と回答した割合が、50%以上となっています。特に「1.ハンドブック」、「4.児童相談所」、「5.子育て支援センター」、「8.(保育園の)あそび・子育ておしゃべりサロン」、「13.しずおか優待カード」、「15.児童館」、「16.(保育園等の)一時保育」、「19.(幼稚園の)子育てひろば」、「21.妊婦健康診査」は70%以上の高い認知度をしめしています。

実際の「利用状況」では、『21.妊婦健康診査』(75.0%)、『5.子育て支援センター』(64.0%)、『13.しずおか子育て優待カード』(62.7%)、『15.児童館』(52.7%)、『20.こんにちは赤ちゃん事業』(43.7%)、『19.(幼稚園の)子育てひろば』(42.6%)、『8.(保育園の)あそび・子育ておしゃべりサロン』(41.1%)が利用の割合が高い事業となっています。

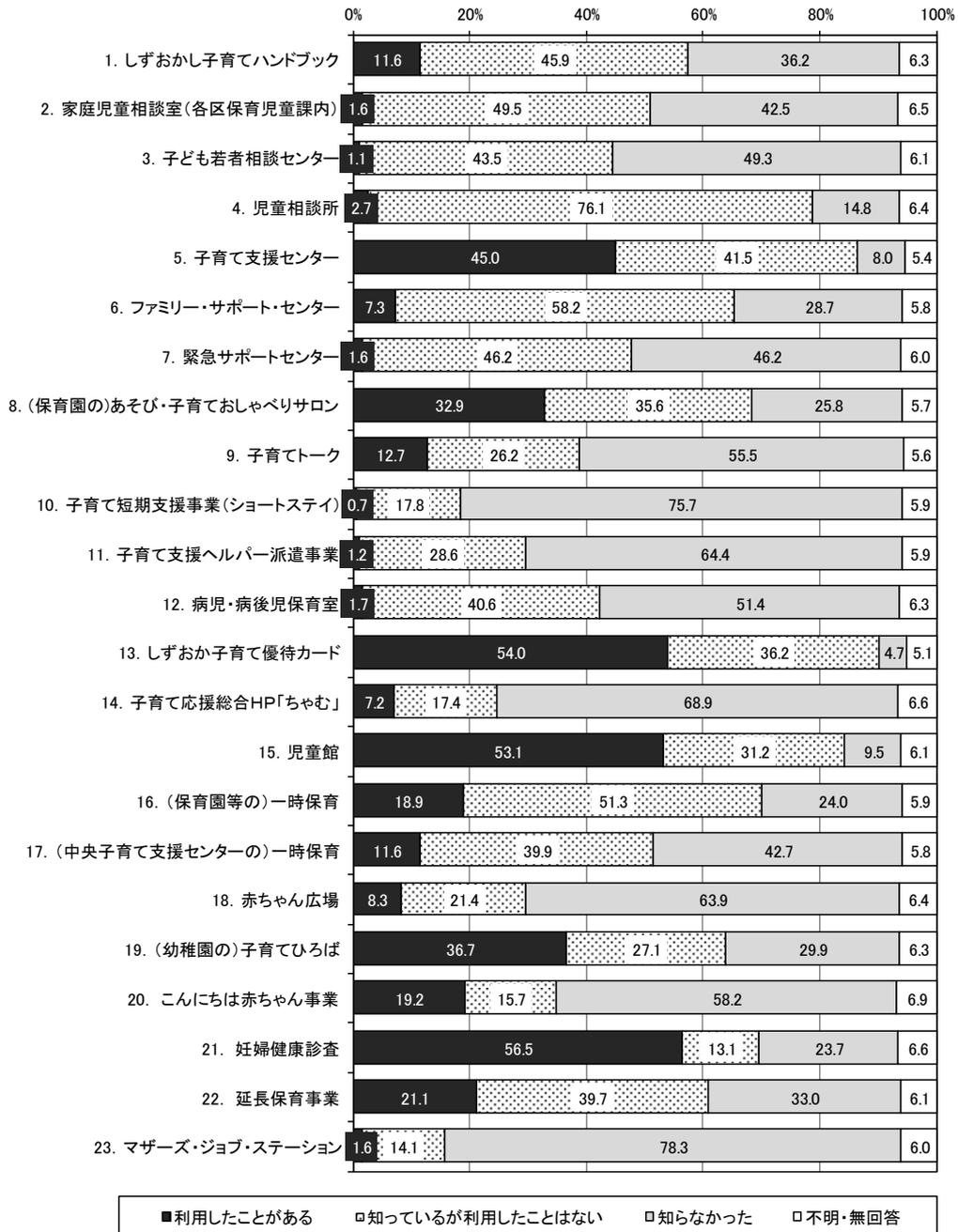
各事業の認知度・利用状況 【就学前児童】(N=3058)



就学児童の各事業の「認知度」では、23事業のうち13の事業について「利用したことがある」及び「知っている」と回答した割合が、50%以上となっており、特に認知度が高い事業は、就学前の回答と同様の傾向を示しています。

実際の「利用状況」では、『21.妊婦健康診査』（56.5%）、『13.しずおか子育て優待カード』（54.0%）、『15.児童館』（53.1%）、『5.子育て支援センター』（45.0%）、『19.（幼稚園の）子育てひろば』（36.7%）の利用割合が高い事業となっています。

各事業の認知度・利用状況 【就学児童】 (N=1159)

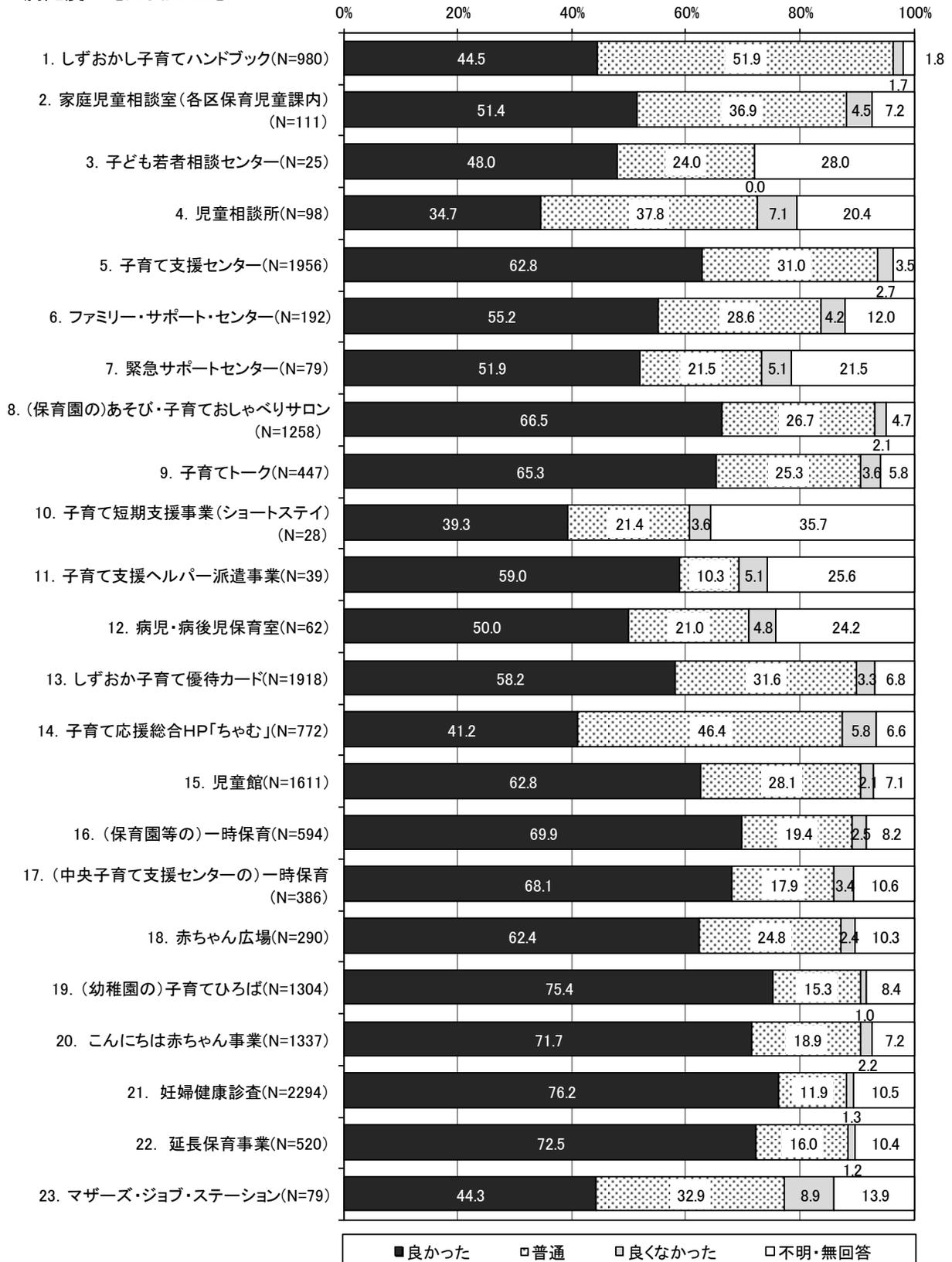


(1) で「利用したことがある」を選んだ方

(2) 各種事業の満足度〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 32B、就学児童調査…問 27B〕

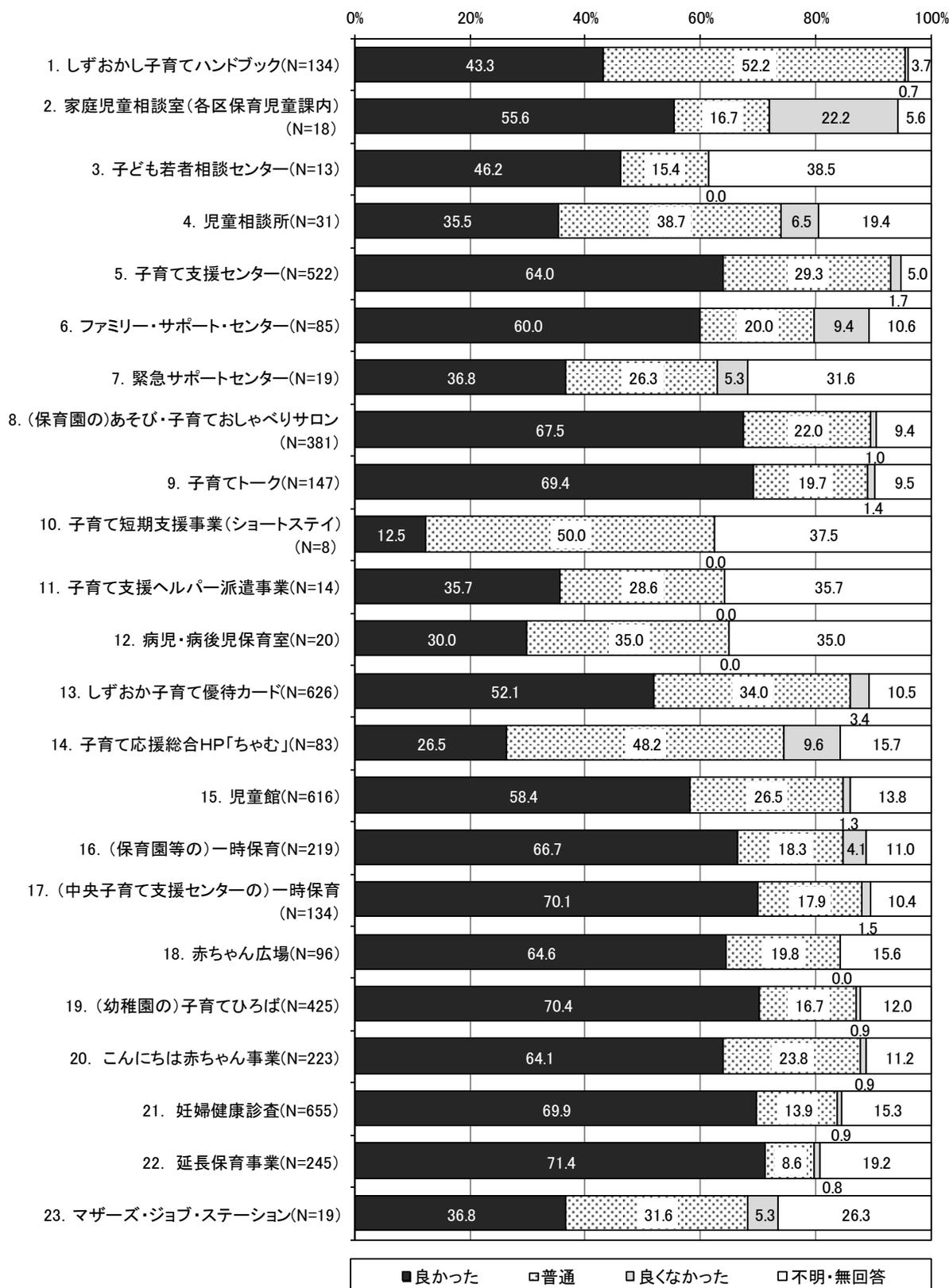
就学前児童の利用したことがある事業の満足度についてみると、「良かった」が50%以上ある回答が全23事業中17事業となっており、『19.(幼稚園の)子育てひろば』、『20.こんにちは赤ちゃん事業』、『21.妊婦健康診査』、『22.延長保育事業』はいずれも70%を超える高い満足度となっています。

各事業の満足度 【就学前児童】



就学児童についてみると、「良かった」が50%以上ある回答が全23事業中14事業となっており、『17.（中央子育て支援センターの）一時保育』、『19.（幼稚園の）子育てひろば』、『22.延長保育事業』はいずれも70%を超える高い満足度となっています。

各事業の満足度 【就学児童】



(1) 効果が高いと考えられる施策または充実を図って欲しいと期待する施策〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問34、就学児童調査…問29〕

効果が高いまたは充実を図って欲しいと期待する施策についてみると、就学前児童では、「9.保育園や幼稚園等の費用負担の軽減」が53.0%と最も高く、次いで「10.子育てのための経済的支援の拡充」が44.2%、「2.児童館や公園などの子どもの遊び場の拡充」が42.5%となっています。その他では、「3.放課後児童クラブの整備」、「4.保育所を増やす」、「17.働き方の見直し」が20%以上と比較的期待が高くなっています。

就学児童では、「10.子育てのための経済的支援の拡充」が57.9%と最も高く、次いで「2.児童館や公園などの子どもの遊び場の拡充」が47.1%となっており、「9.保育園や幼稚園等の費用負担の軽減」、「15.医療機関を受診できる体制整備」、「17.働き方の見直し」も20%以上と高くなっています。

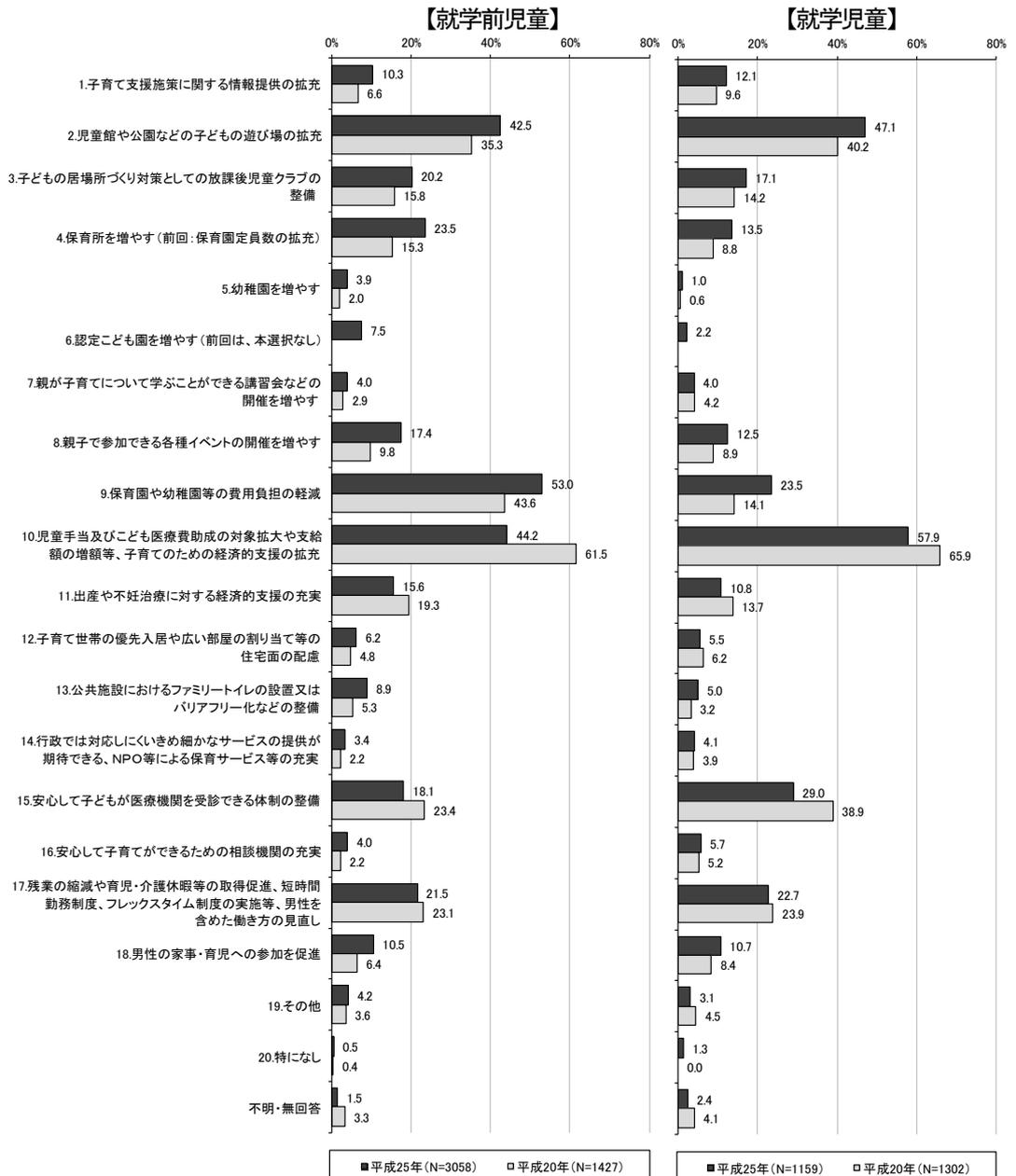
【平成20年度調査との対比】

前回と今回の調査を比較すると、就学前児童と就学児童の傾向に大きな差異はみられません。

就学前児童では「9.保育園や幼稚園等の費用負担の軽減」が9.4ポイント増、「4.保育所を増やす（前回：保育園定員数の拡充）」が8.2ポイント増と割合が高くなっている一方で、「10.児童手当及び子ども医療費助成の対象拡大や支給額の増額等、子育てのための経済的支援の拡充」は17.3ポイント減となっています。

就学児童では「9.保育園や幼稚園等の費用負担の軽減」が9.4ポイント増、「2.児童館や公園などの子どもの遊び場の拡充」が6.9ポイント増と割合が高くなっている一方で、「15.安心して子どもが医療機関を受診できる体制の整備」は9.9ポイント減、「10.子育てのための経済的支援の拡充」は8.0ポイント減となっています。

就学児童では「9.保育園や幼稚園等の費用負担の軽減」が9.4ポイント増、「2.児童館や公園などの子どもの遊び場の拡充」が6.9ポイント増と割合が高くなっている一方で、「15.安心して子どもが医療機関を受診できる体制の整備」は9.9ポイント減、「10.子育てのための経済的支援の拡充」は8.0ポイント減となっています。



(2) 子育てについて、日頃悩んでいることや不安なこと〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 35、就学児童調査…問 30〕

子育てについて、日頃悩んでいることや不安なことについてみると、就学前児童では「8.子育てにかかる費用が大きな負担になっていること」が36.9%と最も高く、次いで「1.子どもの病気や発育・発達に関すること」、「2.子どもの食事や栄養に関すること」、「7.仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」、「9.子どもの教育に関すること」がいずれも高く、31~34%台となっています。

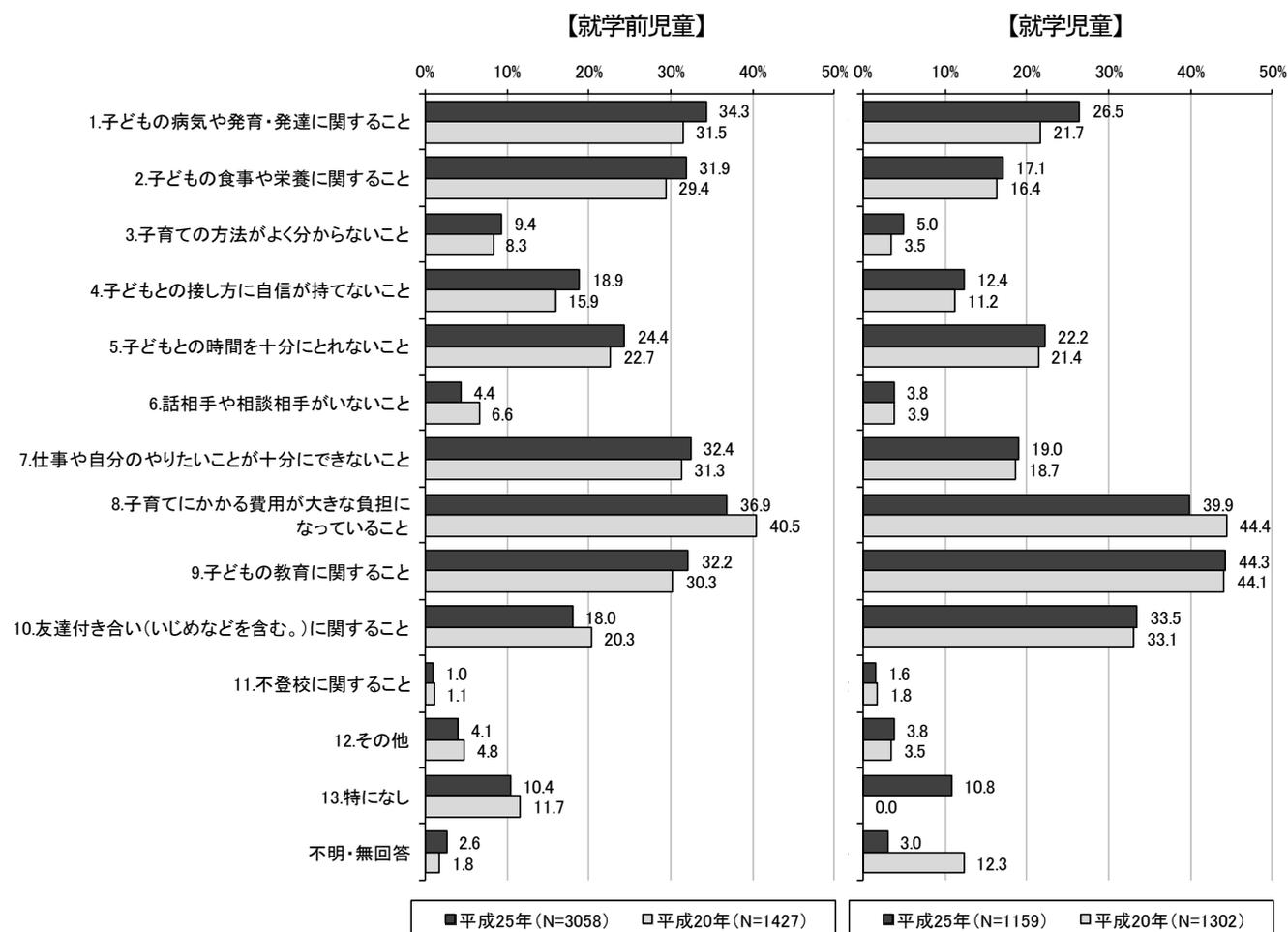
就学児童では、「9.子どもの教育に関すること」が44.3%と最も高く、次いで「8.子育てにかかる費用が大きな負担になっていること」が39.9%、「10.友達付き合いに関すること」が33.5%となっています。

【平成20年実施前回調査「次世代育成支援対策に関するアンケート調査」との対比】

前回と今回の調査を比較すると、就学前児童と就学児童の傾向に大きな差異はみられません。

就学前児童では「4.子どもとの接し方に自信が持てないこと」が3.0ポイント増と割合が高くなっている一方で、「8.子育てにかかる費用が大きな負担になっていること」が3.6ポイント減となっています。

就学児童では「1.子どもの病気や発育・発達に関すること」が4.8ポイント増と割合が高くなっている一方で、「8.子育てにかかる費用が大きな負担になっていること」が4.5ポイント減となっています。



静岡市「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」調査結果報告書 概要版

発行：静岡市
 編集：静岡市 子ども未来局 子ども未来部
 子ども未来課